

令和6年度 学校評価報告書

学校名	武庫小学校
-----	-------

1 学校教育目標

未来を生き抜く力と健やかな「からだ」の育成

2 今年度の学校重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の展開
- タブレットをはじめとしたICT機器を活用する力の育成
- 規範意識や道徳性を育む教育の推進
- 「共生」の心を育む教育の充実
- 子どもの体を育てる教育の推進
- 体力・運動能力向上をめざした教育、運動を好きになる教育の推進
- 特別支援教育の推進・充実
- 教職員の資質向上
- 地域とともに歩む学校づくりの推進
- 業務改善・校務のスリム化による勤務時間の適正化

3 総合的な自己評価

- ・学習指導については、阪神地区小学校体育研究大会にかかる三田市の研究指定を受けたことにより、体育科を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みを推進した。児童自らで課題を設定し、話し合いや課題解決に向けた取り組みを進める中で、児童の主体性が養われつつあること、授業に活気が生まれ、それが他教科にも波及していることは成果である。
- ・「地域とともに歩む学校づくりの推進」については、学校運営協議会において、育てたい児童像を共有し、意見交換をしながら、協議会としての取り組みについて考え、進めることができた。朝食サポートが軌道に乗ったこと、学級園をはじめとした環境整備が進んだことは成果である。今後、児童の活動に生かしていくために協働的に取り組むことが課題である。
- ・問題行動、不登校については例年同様、発生件数が多い。サポートルーム運営をはじめ、家庭、地域との連携のもと、計画的かつ組織的に指導を進めており、今後も継続する必要がある。

4 総合的な学校関係者評価

- ・学校が組織的に子どもたちを育てようとしていることがよく伝わってきた。学校行事等も工夫され、子どもたちがいきいきと活動している姿を見ると、学校がよく取り組んでいることが伝わってくる。学校の先生方に支えられて子どもたちが育っていることに感謝している
- ・あいさつについても改善の傾向がみられる。自尊感情について徐々にではあるが改善がみられるのは、取り組みの結果ではないかと考える。
- ・生活習慣については、家庭に踏み込めない部分もある。学校や地域が受け皿として環境を整えることが、各機関にできることである。今後も継続していきたい。
- ・学校教育目標を継続し、明るく元気な子どもたち、未来を生き抜く力を育てていきたい。武庫小学校はよい学校だと感じる。支えていくために活動を進めていきたい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
道徳 人権教育	・年間指導計画に準じて指導を行う。	度重なる変更等があったが、工夫して計画に沿った指導が展開できた。	他の教科や領域、学校行事等との関連性を考慮し、生活指導と絡めながら道徳性の育成を進める。	児童の落ち着きについて学校の取り組みを評価する。
	・自尊感情の高い子どもを育成する。[わたし]	昨年度より改善傾向にある。「価値発見」の推進及び特別活動実施の結果。	学校行事をはじめとした特別活動の機会を充実させ、役割分担をしっかりと意識させることにより、達成感を持たせる。	自尊感情の改善に校長が推進する「価値発見」の取り組みや行事が関係していると考え。学校と連携しながら自尊感情を高める取り組みを探していきたい。
	・差別を許さない、他者を大切に子どもを育成する。[あなた・みんな]	ほぼすべての児童が友達を大切にできていると感じている。	他者意識の向上につながるよう、「やさしさの木」等を活用した取り組みを進める。	引き続き、児童の関係をつなぎ、よりよい関係を構築してほしい。
研究推進	・主体的、対話的で深い学びが実現できる授業を構築する。	体育科での課題解決に向けた話し合いを重視した。	「対話」のあり方について課題意識を高め、解決の過程を意識させる。	研究会の様子を見ると、効果が表れていると考える。
	・児童の学力を向上させるための手立てを考え実践する。	学習内容が理解できていないと感じる回答がある。	基礎基本の定着に向けて、時程の工夫や家庭教育を促す手立てを考える。	児童や教職員にとって、よりよい時程にする工夫や、放課後子ども教室等、地域の教育力を活用し、児童の力を高める取り組みを推進してほしい。
	・研究実践を評価し、多様な教科領域に生かす。	研究発表会を開催し、授業改善を図ることができた。	体育科の授業だけでなく、研究内容を他の教科にも活用し、授業を充実させる。	授業改善が子どもたちの生き生きとした姿につながるよう継続させたい。
生徒指導	・教職員は生活指導の方針を共通理解し、指導に温度差なく「チーム武庫」として指導にあたる。	あいさつ、話を聞く、時間を守る、が改善傾向にあるがまだ十分ではない。	形を整えるだけでなく、日常の中で繰り返し指導し、習慣化していく。	家庭に入り込めない部分もあるが、啓発を進めるとともに、受け皿を整えたい。

	・保幼中や地域、関係機関との連携を図る。	丁寧に連携を図り、情報共有に努めることができた。	幼稚園、中学校と綿密な連携を図る。中学校とは具体的な取り組みを進める。	あいさつ運動等、地域との連携もさらに充実させていきたい。
	・本校の「いじめ防止基本方針」にのっとり学校全体で組織的な取り組みを行う。	問題行動やいじめの解決に組織的に取り組めた。	問題行動を少しでも早く把握し、対応できるよう、組織的な児童理解に努める。	問題行動の減少に向け、地域の教育力も活用しながらともに取り組んでいきたい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域の思いや願いを把握する。	予算を効果的に執行し、児童の活動の充実に資することができた。	学校運営や教育活動について、地域の願いや教育力を活用し、環境整備やゲストを招いた授業等をさらに充実させる。	ホームページや学校運営協議会にて情報発信がされている。さらに連携を充実させるとともに地域としても学校をサポートしたい。
	・コミュニティ・スクールの充実を図る。			
	・地域と連携・協力した取り組みを積極的に進める。	効果的な活動が増えた。	教育活動において必要な支援をコーディネーターと連携しながら取り組んでいく。学校との協働的な取り組みをさらに進める。	子ども達にいろいろな出合いを体験させ、視野を広げてやりたい。若い世代のボランティアも増えつつあり、持続可能な活動となることを期待している。

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
1 2月	教職員アンケート（学校の運営について7 2項目）
1 2月	児童アンケート（学校生活・家庭生活について1 6項目）
1 2月	保護者アンケート（児童の育ち、学校の様子について1 9項目）
	行事等の評価については随時実施

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
5月	第1回学校関係者評価委員会（委員委嘱・学校評価の趣旨確認）
7月	第2回学校関係者評価委員会（学校評価の方向性の報告・検討）
1 2月	第3回学校関係者評価委員会（学校評価結果の検討）
3月	第4回学校関係者評価委員会（学校の自己評価に対する評価）

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
随時	学校だより	学校評価の結果及び今後の改善策を記載、かつ保護者に配布。	
随時	学校ホームページ	今年度の学校評価の結果及び今後の改善策を記載。	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います